

[著書]

「木造住宅納まり詳細図集コンプリート版」

柴崎 恭秀

共著、エクスナレッジムック出版、2008年7月

木造住宅建築のディテールに関する著書200 項のうち、冒頭総括部分、矩計の部分、木造住宅の類型に関する分類と記述、第1章「内部仕上げ編」、第2章「外部仕上げ編」を担当。総括部分の記述では木造住宅建築の変遷や建築材料の変化について論じている。

[展覧会]

作品「パッセージ (Passage for forest)」

柴崎 恭秀

福島現代美術ビエンナーレ2008出展作品

サイズ・材 4000×6000×4000、杉間伐材、鉄筋

展覧会会期 2008年10月18日～10月26日

主 催 福島現代美術展実行委員会、国立大学法人福島大学

共 催 財団法人福島県文化振興事業団、財団法人福島市振興公社(福島市写真美術館)

3回目となる福島現代美術ビエンナーレ2008に招待作家として出展。福島県南材である杉間伐板材を異形鉄筋により螺旋状に接続。会期中に遊具として子どもたちに開放し彫刻に親しんでもらった。

パッセージ(Passage)とはフランス語では天蓋のある通路空間を意味するが、森と人との関係が親密なドイツをはじめとするヨーロッパ北部では森のなかの小道を意味する。物語「森は生きている」や戯曲「ニーベルンゲンの詩」などでは森の木々が人の進入を拒んで道を隠すシーンが度々描かれてきた。作品「パッセージ (Passage for forest)」は円筒のなかに人を招き入れるようにみえて実はその脇から真の招待者を招くためのゲートである。



